

長畝ふるさと通信

【2017年1月号】

■ 冬が来ました…穏やかな日々はいつから？

1月14日、組合員懇談会を開催しました。穏やかな正月を迎えたと思ったら、いきなりの寒波到来。佐渡汽船は欠航が続き、懇談会の勉強会でお招きするはずだった講師先生(岐阜県で龍の瞳というブランド米を生産・販売する生産者とそのお米を食味鑑定コンクールで入賞させる肥料メーカーの人)は残念ながら海を渡れず終い。そのおかげで大幅な時間短縮とあいなって宴会突入となりました。今年もどうやらお酒との相性は宜しいようで…。



組合のこれからを検討する「長畝未来プロジェクト」の中間報告を行いました。中小企業診断士の先生にお願いした財務分析は「県下でも最優良」とのお墨付きをもらいました。また、組合の今後について調査した組合員アンケートでは後継者不足や高齢化による田んぼ管理者の減少が具体的な数字となって表れ、組織として持続可能な条件が問題となりました。「自分たちのふるさと」は自分たちの手で守り引き継ぐ」の精神を再確認し、今後、経営改革を進めていくつもりです。

■ 島根県出雲市と交流

国内でトキの分散飼育を行っているのは多摩動物公園の他に新潟県長岡市、石川県いしかわ動物園そして島根県出雲市です。出雲市ではこれまでに31羽のトキを人工飼育し、うち24羽が佐渡で放鳥されています。この度、出雲市長をはじめ、市議員や関係団体など約20人が来島



し、佐渡トキ関係者らと交流を深めました。本来、分散飼育は鳥インフルエンザなどの感染症で絶滅を防ぐことが目的ですが、受け入れ側の意図はそればかりではありません。トキの野性放鳥による環境保全のアピールや経済効果を狙ってのことです。現在、分散飼育地ではトキを一般公開することさ

え許可されておらず、日々、人工飼育に努力されているのです。出雲市長は「1日も早く出雲の空にトキを飛ばすのが夢です」と抱負を述べました。近い将来、日本各地で野生のトキが舞うようになってほしいと思う反面、「やっぱりトキは佐渡のオンリーワンであってほしい」気持ちも正直なところ。いづれにしても、野に放てばトキが自ら住処を選ぶのですから、より居心地の良い環境・佐渡をつくる以外ないのだと感じました。トキ田んぼはこれからも進化します！

■ 田の草フォーラム

1月28～29日、NPO法人メダカのがっこうが主催する「第7回 田の草フォーラム イン東京」に参加してきました。有機栽培と自然栽培と俺流の田んぼの達人たちの実践報告は大変興味深いものでした。「雑草と戦わない草防除」「土の力を引き出す自然農法」「生物多様性を育む有機農法」など千差万別。生産者によって考え方も栽培方法も全く異なり、「参考にはなっても決して真似てはいけない」ものばかり。なぜ、こんなに苦勞してまで取り組むのかと言えば「食の安全への追求」「子供たちの未来のため」など心が震えるお言葉が次々と飛び込んできます。日本の「食」や「農業」を転換する力がここには見えました。佐渡にも是非この力を広げていきたいものです。印象に残った資料の一部を引用します。



「戦後72年経ちました。70年は草木も生えないだろうといわれた広島で、原爆投下後の翌年の春、たくさんの草が生まれました。地球の歴史と同じく、最初に立ち上がったのは草たちでした。今も、草とその根に棲む菌たちは、地球を浄化するために無言で働いてくれています」

「戦後72年経ちました。70年は草木も生えないだろうといわれた広島で、原爆投下後の翌年の春、たくさんの草が生まれました。地球の歴史と同じく、最初に立ち上がったのは草たちでした。今も、草とその根に棲む菌たちは、地球を浄化するために無言で働いてくれています」

■ 農協で牛(べこ)飼うだ

今春からJA佐渡で佐渡和牛の繁殖支援施設(CBS=キャトル・ブリーディングステーション)が稼働します。子牛を肥育し、子牛市場に出荷するまで飼養管理する施設で、3年かけて250頭まで拡大するそうです。場所は長畝柿団地の雑木林を開拓し、現在建設中。当然、牛たちが食べる草飼料や稲わらが必要となります。そこで地元の我が組合に白羽の矢が立ちました。稲を穂がつく前に刈り取って飼料用に転用するホールクロープや稲刈り後の稲わらを積極的に提供します。その見返りは牛糞堆肥などの有機肥料やもみ殻堆肥。地元の餌で育った牛→そこから作る有機肥料で育てるお米→「循環型農業」が実現するかもしれません。



普通、干し柿は縦に吊るしますが写真のお宅では横に吊るしています。地域が横の関係でつながって美味しい実ができるって素晴らしい。こんな関係性をお米作りにも生かしていきたいと考えています。

1月15日、集落内で恒例行事の「とうらやさん」での一コマ。寒中で食べる餅やスルメは最高に美味です。これもご近所付き合いがなせる業です。

